

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

2021年度 総会・連携会議 議事録

1. 本年度の総会・連携会議の形態について

2021年度の公大協の総会と連携会議は、2020年度に引き続いて、メールマガジン第3巻1号の誌上開催とすることにいたしました。新型コロナウイルス感染防止のために、2021回日本心理学会大会もWeb開催となり、公大協の総会と連携会議も対面形式で開催することができないためです。

2. 活動報告

昨年度の総会（2020年9月）から2021年9月までの公大協の活動を報告した。

2020年の公大協の活動

9月7日 当会の連携団体である日本心理学会学術会議の心理学教育プログラム検討分科会および健康・医療と心理学分科会から、提言『未来のための心理学の市民社会貢献に向けて：高等学校の心理学教育と公認心理師養成の充実を』が発出されました

<http://www.sc.j.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t296-4.pdf>

公認心理師の養成と社会での活躍についてのあり方を提言しています

9月8日～11月2日 公大協シンポジウム「公認心理師の養成 現場実習を中心に」が開催されました（日本心理学会との共催）。公認心理師制度推進室から島田隆生氏が話題提供をおこないました

9月11日～30日 シンポジウム「公認心理師の実践トレーニング：認知行動療法のスーパービジョン」が開催されました（日本認知・行動療法学会と共催）

9月18日 メールマガジン第12号（会員限定）を配信しました

2020年度の公大協総会・連携会議は新型コロナウイルス感染症防止のため誌上開催となりました

11月21日 シンポジウム「公認心理師の診療報酬と認知行動療法」が開催されました（日本認知療法・認知行動療法学会と共催）

12月2日 メールマガジン第13号（会員限定）を配信しました

2021年の公大協の活動

2月2日 公大協メールマガジン第14号（会員限定）を配信しました。

2月25日 2020年度の公大協の活動を年報にまとめ、ホームページで公表しました。

公認心理師制度推進室に提出しました。

3月23日 関連団体情報のページに保護観察官選考採用の公募について（関東地方更生保護委員会）を掲載しました。

6月28日 公大協の運営会議が開かれ、新年度の役員・委員会が発足しました。

https://psych.or.jp/qualification/shinrishi_info/training_meeting/

8月 公大協メールマガジン第3巻1号を配信しました（会員限定）。この号で、2021年度の公大協の総会・連携会議（新型コロナウイルス感染症防止のため誌上開催）

9月 2021年度の公大協の運営会議が開かれました。

9月1日～8日公大協シンポジウム「実践現場からみた公認心理師制度」が開かれました（日本心理学会との共催）。公認心理師制度推進室から公認心理師専門官吉橋実里氏が話題提供をおこないました

10月10日～11月7日シンポジウム「公認心理師養成における認知行動療法トレーニング ―コンピテンスに基づいた教育―」が開催されました（日本認知・行動療法学会と共催）

2022年の公大協の活動

3月 2020年度の公大協の活動を年報にまとめ、ホームページで公表予定。

公認心理師カリキュラム・出題基準の公大協改定試案を公表予定（その後試案に対するパブリックコメント受付予定）

9月8日～11日 日本心理学会第86回大会。2022年度の公大協の運営会議、総会、連携会議予定。公大協シンポジウム開催予定

3. 委員会からの活動報告

■学部カリキュラム検討委員会

本委員会では、公認心理師養成における学部カリキュラムのあり方について検討を重ねてきた。「知覚・認知心理学」のようなナカグロ（・）科目に関わる問題、卒業論文の必要性、学部カリキュラムでの実習の方法について議論してきた。今年度はこれまでの議論を踏まえて、基礎心理学教育と卒業論文を学部カ

リキュラムの中でどのように位置づけるべきかの議論を続ける予定である。公認心理師試験出題基準およびブループリントの改定案を国家試験検討委員会および大学院カリキュラム検討委員会と協働して作成する過程で、学部カリキュラムのあり方に対する本委員会の見解を反映させていきたい。公認心理師試験出題基準およびブループリントの改定案の作成においては、学部カリキュラムを抜本的に見直すことも含めて作業を進めていく予定である。

■大学院カリキュラム検討委員会

大学院カリキュラム検討委員会では、昨年度からコロナ禍での大学院教育のあり方や工夫について会員間で情報共有してまいりました。また、2020年9月7日に示された日本学術会議の心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会及び健康・医療と心理学分科会の提言「未来のための心理学の市民社会貢献に向けて：高等学校の心理学教育と公認心理師養成の充実を」にも示されている、研究者養成のキャリアパスの強化に関しても議論を進めております。今年度はこうした活動を継続させながら、5年ごとに行われる公認心理師の制度見直しに向けて、大学院カリキュラムの見直しと更なる発展に向けた提の準備をしております。会員の皆様から広くご意見をいただく機会を設けながら進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■現場実習検討委員会

2021年度からは、これまでの委員会の体制を強化し、委員長として長田久雄（桜美林大学）、副委員長として古川洋和（鳴門教育大学）と小関俊祐（桜美林大学）を中心として、委員会を運営している。2019年度年報にて報告した現場実習の手引き（2020年1月版）について見直しを進め、2021年度中に5分野ごとの実習マニュアルを公開できることを目標に活動を行っている。今後は、2020年度に実施し現場実習に関する調査の結果に基づいて、コロナ禍での対応・対策の検討、実習担当教員や現場実習担当者の任用資格等の問題について、現状を把握しつつ、必要な意見の集約と対応を行っていく。

■国家試験検討委員会

2021年度の目標は、公認心理師試験出題基準およびブループリントについて、公大協として改定し試案を作成することである。公認心理師試験の出題基準と公認心理師試験設計表（ブループリント）は、平成30年に発表されたが、初回の試験実施のために大急ぎで作られたものであり、それから3年を経て、根本的な検討をすべき時期に来ている。そこで、公大協として、養成大学・大学院の側から、新たに根本的な改訂をおこない、公大協としての試案を発表したい。5年ごとに行われる制度見直しの際に、「提言」として政府に提出できるような資料としたい。このために、学部カリキュラム検討委員会との合同で作業したい。

■編集委員会

編集委員では、現在、年報の編集作業を行っており、冊子の送付先について検討中です。

■広報委員会

広報委員会では、これまでの委員会の体制を強化し、委員を増員してメールマガジンの内容の充実、ホームページの更新を行っている。

4. 公大協の2021年度以降の活動

2017年の施行以来5年目となる2022年は見直しの時期に当たります。現在、公大協は、公認心理師要請カリキュラム、公認心理師試験出題基準、試験設計表（ブループリント）、到達目標などの見直しをおこなっています。これらは2018（平成30）年に作られましたが、それから3年を経過して、根本的な検討をすべき時期に来ています。2021年度中に、公大協の総力をあげて取り組み、公大協の試案を公表する予定です。その後、パブリックコメントを求め、加盟団体のご意見も伺う予定です。公認心理師が真に国民のために大きく貢献できるように、またその養成が実のあるものになるように、公大協は活動を続けていきたいと思っております。

今後も皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。